



ぷっくりハート育成事業 吾北中公開授業



令和4年1月19日(水)に、吾北中学校の公開授業と学校版寺子屋がありました。新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、参加人数が制限された中での公開授業となりましたが、町長、教育長はじめ役場職員8名、研究所6名が参観しました。

公開授業「全校による特活(生徒会活動) 体育委員会による『BIG ZERO』」

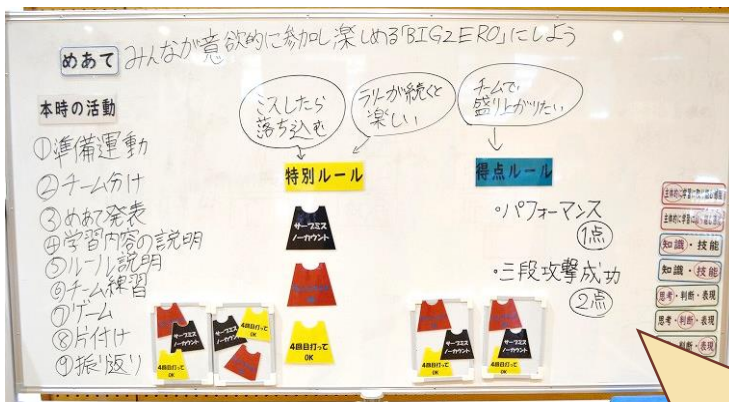
この公開授業は「体力向上のために、昼休みに外に出て運動しよう。昼休みに教室にいる人をゼロにしよう」という吾北中の取組「BIG ZERO 運動」を体育委員会の生徒が拡大した活動の様子であった。

まず生徒は、くじ引きで縦割りのグループを作り、チーム内で特別ルールを適用する生徒と、得点したときのパフォーマンスについて話し合った。チームのリーダーが下級生の意見を聞きながら、話し合う様子が見られた。

次に、生徒は試合中、得点するごとに最初の話し合いで決めたパフォーマンスをチーム全体でした。特別ルール適用の生徒も、話し合ってから交代する姿が見られた。

最後に、生徒が輪になり、チームの良かったことについて振り返った。頑張っていた仲間をほめたり、「全部負けたけど楽しかった」と感想を伝え合ったりした。

菊池先生からは「みんながよりよい学校生活を送れるためにこの取組を決めたそうですね。民主主義の基本です。みんなが楽しくなるために意見を出し合い、決めたことを大事に守っていく。こういう取組を大事にしている人たちは、きっと優しくなるのですね。」とコメントがあった。



特別ルールを設定し、みんなで楽しむための工夫を生徒同士で話し合っていた。

北岡教諭より授業のふりかえり



生徒会活動を研究授業にすることは珍しい。先輩たちの思いを受け継いだ体育委員会の生徒がやりたいことに対して、教師が手助けをしたという授業である。今までの活動はドッジボールや鬼ごっこのようなものだったが、今回は生徒が難しいと感じているバレーボールに挑戦した。生徒たちがアンケートを取り、問題点をクリアするにはどうしたらよいかと話し合い、今日の活動となった。

参観者より

- ・ 苦手な子も頑張っとうやろうと思えるルールだった。それぞれのグループが作戦を立てていたところがよかった。グループ内の優しい関係性がよく分かった。
- ・ 個を認める話し合いができており、振り返りの際にも自然にあたたかい拍手が起こっていた。ほめ言葉のシャワーの取組が生きている。
- ・ 次へつなげるなら、審判も子どもで運営したり、チームワーク賞等を決めたり、今回の特別ルールはこれでよかったかを振り返ったりしてもよいのではないかな。

学校版寺子屋

「言葉をつなぎ、生徒同士の考えが深まる対話・話し合いをさせる手立て」

①共感的な聞き方、話し方の日常指導を！

聞き上手ではなく、話させ上手な子どもを育てたいですね。「聞き方あいうえお」のようなものは、「目を見て聞きなさい」とダメ出しをする基準になり、臆（しつけ）になってしまいます。一生懸命話を聞いている子どもの姿をほめましょう。

ほめるポイント

例：目の動き

・凝視の時間

・瞳孔の開き

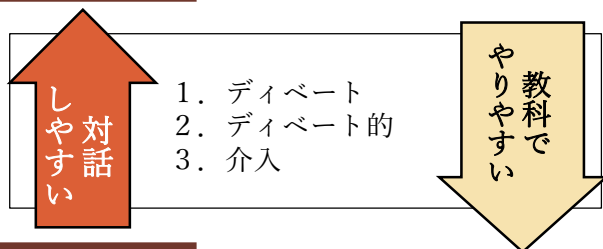
・空気が変わる時の目

②民主主義のクラスをつくるために

タックマンモデルにおける、達成期のゴールイメージを明確に持つことが重要です。単にほめ言葉のシャワーや価値語をしましょうという取組ではありません。民主主義のクラスをつくるために対話・話し合いをしましょう、ということです。何か特異なことをしているわけではありません。

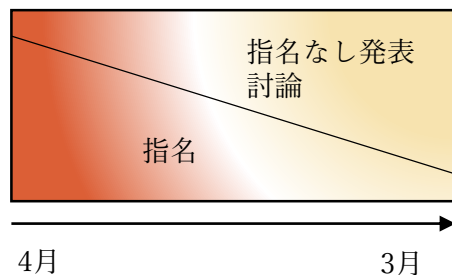
③授業づくり3つの視点

対話が生まれるためには、意見が対立する場面を作りましょう。



④挙手⇒指名⇒発表のみからの脱却

学級が達成期に向かうと、指名が減り討論や指名なし発表になると思いますが、4月は先生が指名する場面もあると思います。指名をする理由は、正解を求めるのが全てではなく「Aさんのこういうところが素晴らしい」と伝え、成功体験をさせるためです。段々と指名する割合を減らし、交流できるようにしましょう。



教育研究所より

公開授業をしてくださった吾北中学校の皆様、ありがとうございました。参観者は、子どもたちの温かい人間関係を感じることができました。他の学校の先生方に公開できず残念でした。研究協議や寺子屋では、先生方が積極的に話し合ったり交流したりする前向きな姿勢が印象的でした。